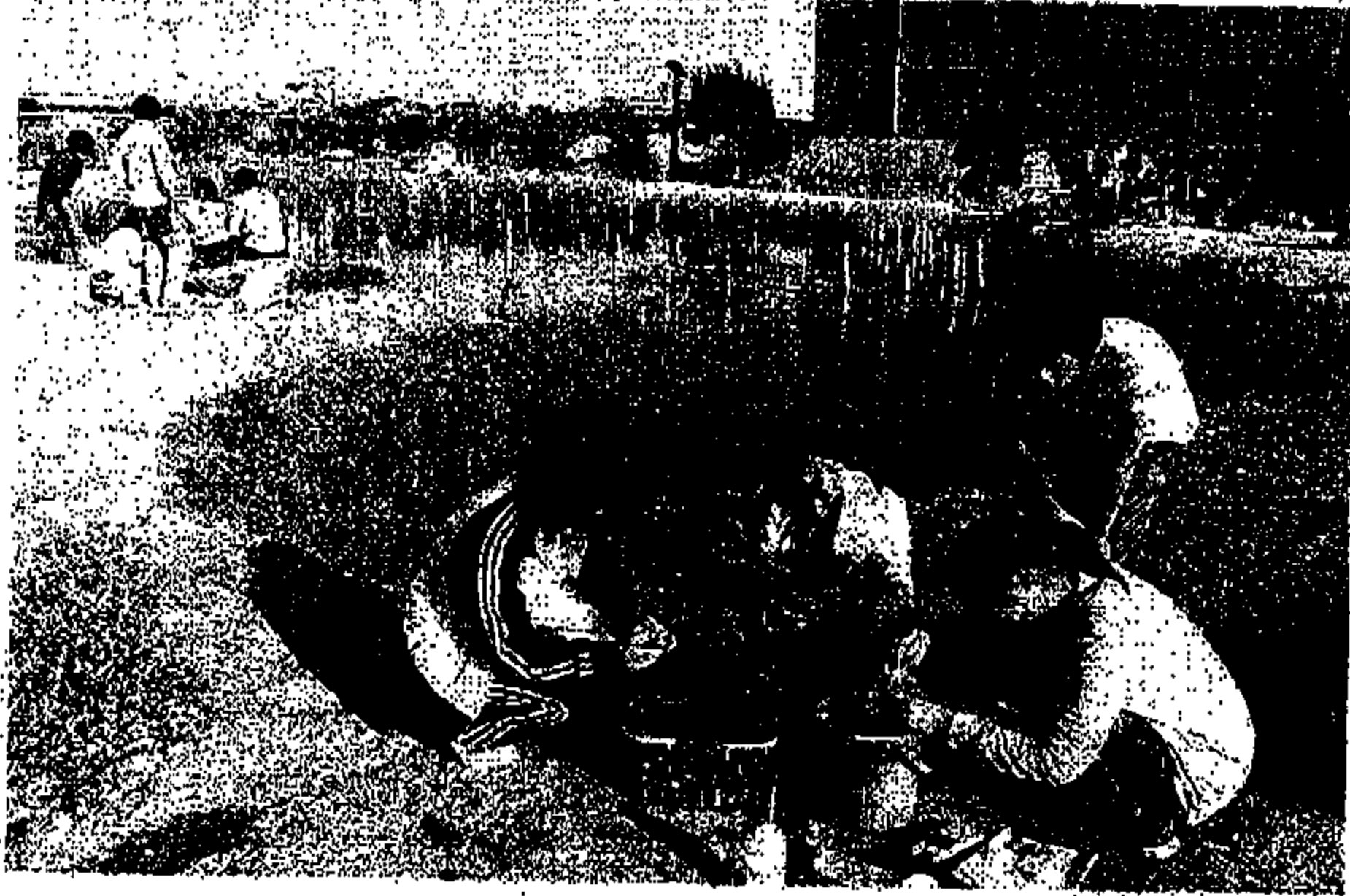


水循環施設でビオトープ池の水質を調べる学生



岡山大水循環施設

(岡山市北区津島中)

水の風景

でいた。

7月中旬、同学部2年生

施設は、水辺環境の復元と約20人が池の敷力所から水その維持管理を実践的に学を採取し、水温や有機物のぶ場として岡山大が昨年11月を調べていた。参加した月に建築。環境理工学部棟東小川菜葉子さん(20)は「水環境は生活に密接にかかわっている。興味は尽きない」と声を弾ませた。

池は平日の午前8時半が

命はぐくむミニ児島湖

「生池」と名付けられた水循環の気象観測装置を備えている。開放されている。沖教授は

という短い間にも、その名の通り多くの命をばぐくむ。最大の特徴は、同じ観測装置を水質悪化が深刻な児島湖環境のスペシャリストを養成する教育施設としてだけ

維持管理で得られたデータと比較しながら、児島湖の浄化に生かそうという取り組みだ。「そういう意味では、ミニ児島湖といえる施設」と同学部の沖陽子教授。



『随時掲載』
(久万真毅)